

令和5年3月7日(火)午前9時から和木町役場議事堂において、
第1回和木町議会定例会を再開する。

○出席議員(9名)

1番	津島宏保
2番	栗本詠子
3番	嘉屋富公
5番	上田丈二
6番	中村充子
7番	上岡富士夫
8番	小林秀嘉
9番	森脇明美
10番	灰岡裕美 副議長

○説明のため出席した者

町長	米本正明
副町長	田中雅彦
企画総務課長	渡邊良平
税務課長	松井敏浩
住民サービス課長	鳥枝靖
都市建設課長	山下純二
保健福祉課長	坂本啓三
教育長	重岡良典 教育委員会
事務局長	森本康正 //

○会議に従事した職員

事務局長	吉岡司
書記	松島久子

開 議 会 長	9時00分 おはようございます。 これより本日の会議を開きます。 兼本議長から体調不良により本日の会議を欠席する旨、届出 がありましたので報告します。 本日の議事日程は、お手元に配布をしてあるとおりです。
議 長	日程第1 一般質問を行います。 質問の通告が5名です。通告順に質問を許可いたします。 質問順位1番 6番議員 中村充子君。
議 長	質問順位1番 6番議員 中村充子君。
中 村 議 員	おはようございます 通告に従いまして、一般質問をいたします。 未就園児の週の定期的預かり事業についてお尋ねいたしま す。 核家族化が進み地域との繋がりも希薄になる中、政府は4月 から親子の孤立を防ぐため、保育所の空き定員を活用した未就 園児を預かることにしたようです。保育所や幼稚園に通ってい ない小学校入学前の0歳から5歳児です。支援がない無援、周 囲とのつながりが乏しい無縁、との意味も含めて子育て支援団 体などが無園児という表現を用いています。未就園の子どもは 家庭での養育を選んでいるケース以外に、保護者が就労要件を 満たしていなかったり、経済的に余裕がなかったりして希望し ても入園ができない場合もあると新聞に掲載されていました。 未就園の子どもがただちに虐待につながる訳ではありません が、育児の悩みを抱え込む母親への対応が必要になっていま す。最近のニュースでネグレクトを疑われていたお母さんが赤 ちゃんの頭を叩いて死亡させた事件も放送されています。 そのような悲しい事件が起きないように子育て支援できれ はと考えています。 質問いたします。

保育の現場は人手不足ですが、親子の孤立を防ぐため週に2、3回こども園で定期的に預かることはできないでしょうか。

議長 森本教育事務局長。

森本教育委員会事務局長 中村議員の質問にお答えします。

こども園では、3歳以上の希望者は全員入園することができています。しかし、3歳未満児の空き定員はございません。

施設の規模を考えると受け入れ可能だと思われがちですが、安心・安全を最優先とすると現状がふさわしい定員だと考えています。

また、質問事項にありましたように、何よりも現場の人手不足が挙げられます。本園に設置しています子育て支援センターの運営が独立しておらず、本園の保育教諭がシフトの中で回せる範囲で空きの保育教諭が担当しています。園の開園時間は7時半から19時までの11時間30分ですので、通常時の職場の1.5倍の職員が必要であり、慢性化した人手不足となっています。

3歳未満児の一時預かり事業もできる範囲での実施となっています。ご家庭での状況を踏まえながら、できるだけ預かり保育を進めていく予定としております。議員の言われる週に2、3回定期的に預かるということは、非常に困難な状況だと考えていますのでご理解をお願いします。

議長 中村充子君。

中村議員 はい、子どもの0歳から3歳未満児の希望だったんですが、子どもの安心安全を考えて今は預かり事業はする時ではないということ理解いたしました。ありがとうございました。

次の質問です。

子育て支援センターですが、こども園で週2回開いています。週3回にはできないでしょうか。

議長

森本教育委員会事務局長。

森本教育委員会事務局長

議員の質問にお答えいたします。

人手不足の観点から、週2回での運営が現状では可能な範囲と考えております。また、週3回開設になると園の運営上から園行事との重なりや練習会場の使用等の支障があり、特に、雨天時では遊ぶ場所として遊戯室だけでは賅えないので、こども広場も貴重な遊び場として活用していますので、支援センターの開設日を増やすということは難しいのが現状でございます。

町内では、民生委員が行います子育てサロン「たんぽぽ」や母子保健推進協議会の「ままカフェ」、地域連携教育支援チームの「チョコの会」等の支援団体もございます。支援団体や保健相談センター等と連携を取りながら、行事が重ならないように運営しているのが現状でございますのでご理解をお願い致します。

議長

中村充子君。

中村議員

はい、ありがとうございました。

今、支援団体が「たんぽぽ」「ままカフェ」「チョコの会」というのがあるということで承知はしたんですが、まあ週に3回行うつもりはないというお考えでした。

昔は、子育ては誰かが助けてくれていました。両親だったり祖父母だったり近所の方々などです。

子育ては一人でするものではなく、みんなで育てていくことが大切です。

少子化に歯止めがかかりません。これは、お金の問題ではないと思います。

岡山県倉敷市の子育て支援センターは退職したベテランの保育士や子育てをしてきた主婦などボランティアの方々から来ていて、赤ちゃんの面倒をみてくれたり、ひとりで子育てをしている若いお母さんを「がんばっているね」と励ましてくれたり褒めてくれたり、二人の子どもがいる人は赤ちゃんの面

倒をみてくれて上のこどもとしっかり遊ぶように計らってくださるそうです。

閉鎖的空間で子育てをしているお母さんがほっとできる時間を過ごしているようです。このような時間を持つことができればひとりで子育てをしているという追い詰められた気持ちがほぐれて子どもを産んでみようという気持ちが芽生えるような気がします。

一人で子育てしているお母さんにとって支援してくださる方が必要なのだと私は思います。

次の質問です。和木町は3.4.5歳児の保育料が無料になっています。幼稚園に就園する年齢になって保育料が無料になっているにも関わらず未就園の幼児はいるのでしょうか。

議長 森本教育委員会事務局長。

森本教育委員会事務局長 和木こども園では、その他の教育・保育施設を利用する際には、必ず「教育・保育申請」が必要となります。申請がなければ、町は入園を決定することができません。

しかしながら、和木こども園では、年少となる対象児童の事前把握を行っており、和木こども園に入園しない子どもさんについては、教育委員会と情報共有を行っております。

今現在、どこの教育・保育施設にも在籍していない児童はおりません。

議長 中村充子君。

中村議員 ありがとうございます。

未就園児の入園していない子どもはいないということで承知しました。

次の質問です。

中学校のクラブ活動について質問いたします。

教員の長時間労働の問題などから中学校の部活動指導の外部委託が動きだすため県は4,800万の予算をとりました。

県は国に先駆けて公立小中学校の1学級の人数の上限を35人にしてきましたが、1月30日付で県内の各市町教育委員会に対して35人学級の一部 中2、中3を1クラス38人以下の学級とすると通告しました。

県も働き方改革を進めています。

小学校は下校時間を繰り下げ、中学校は部活動を教員の勤務時間内で終えることで授業の準備に充てるようです。

教師は残業せざるを得なくなっているのが現状です。

中学校の部活動は教職員の勤務時間内に終えることを原則とするが、大会やコンクールなどのために必要な場合は校長の裁量で変更ができるとなっています。

教職員の業務は多岐に渡り改善を少しずつ積み重ねて行くしかないとのこと。

具体的な質問です。

教師が多忙をきわめているので、働き方改革のため中学校の部活動を外部の指導者に任せるといった案が出ています。和木町もそのようなお考えでしょうか。

議長

重岡教育長。

重岡教育長

ご質問にお答えいたします。

公立中学校の部活動を外部の団体や人材に任せるという「地域移行」については、昨年12月27日にスポーツ庁及び文化庁からガイドラインが示され、令和5年度から全国の自治体で取り組むこととなります。

部活動の地域移行が進められている背景として、主に、少子化・生徒数の減少による部員数・部活動数の減少、教員への負担を減らし、本来の業務である授業へ注力しやすい環境をつくるという働き方改革の2つの事由がございます。

文部科学省は令和5年度から7年度までの3年間で「改革推進期間」と位置付け、休日の学校部活動の段階的な地域連携・地域移行を進めるといたしました。ただ、7年度末までの達成にこだわらず、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を

目指すこととなっております。併せて、平日の地域移行についても検討していくことになります。

しかしながら、小さな自治体においては、部活動にかかる会費や保険などの費用が家庭の経済的負担になることや専門的な知識・技術などを有する外部指導員の確保が難しいことなどの懸念が広がっており、大きな課題にもなっている状況です。

本町においても、国のガイドラインの公表を受け、和木町部活動推進協議会を設置し、協議・検討を進めておりますが、他の小さな自治体同様に外部指導員を確保することが非常に困難な状況にあります。

そこで、来年度は、部活動の地域移行に向けて、実技講座を年間20回程度実施する予定で、予算の計上もさせていただきました。

また、全ての部活動を外部指導員に任せるという完全な移行だけでなく、学校や外部の団体の状況に応じて教員と外部人材がともに担当する地域連携や教員の兼職兼業も想定し、まずは、休日の部活動から段階的に地域移行できるよう体制を整えてまいりたいと考えております。

議長 中村充子君。

中村議員 はい、ありがとうございました。

和木町も、部活動を段階的に外部の指導者に任せるというお答えのようでした。

スポーツ界の暴力パワハラ問題で、日本スポーツ協会が設置した窓口への相談件数が過去最多になりました。

内訳では、体罰等の暴力が減る一方、暴言が増加傾向でパワハラ、無視、差別、罰走と合わせて過半数を占めることが分かったと新聞記事に掲載されておりました。

教師が疲れ過ぎて生徒にパワハラをしたら生徒たちが大変です。

中学生の頃の心の傷はいつまでも残ります。この頃にパワハラに遭った生徒が大人になり、教師という職業を選べば何の関

係もない生徒に同じことを行うと心理学者は述べています。

このようなことが起きないように外部指導者を選ばれる時に行き過ぎた指導をしない、勝ち負けばかりにこだわらない、子どもの心と体の成長をみてくれる方を見極めていただきたいと存じます。

以上で私の一般質問を終わります。

議長 再質問はございませんか。

中村議員 ありません。

議長 再質問がないようですので、以上で中村充子君の一般質問を終わります。